

京都市交響楽団 第565回定期演奏会

The 565th Subscription Concert of the Kyoto Symphony Orchestra

スペイン国立放送響の芸術監督・首席指揮者として活躍したイギリスの名指揮者リーパーが、
2013年に没後30年を迎える母国イギリスを代表する作曲家ウィリアム・ウォルトン(1902~83)の

壮大な交響曲を披露。世界的ジャズ・ピアニスト小曾根真が挑む

JAZZY&コミカルなショスタコーヴィチも必聴!

指揮 エイドリアン・リーパー Conductor: Adrian LEAPER

エイドリアン・リーパーは、2001年から2011年までマドリードのスペイン国立放送交響楽団・合唱団(RTVE)の芸術監督・首席指揮者を務めた。RTVEはイギリスにおけるロンドンのBBC交響楽団・合唱団に相当する。それ以前は1994年からグラン・カナリア・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務めた。彼の名が最初に世に出たのは、1986年にマンチェスターのハレ管弦楽団の副指揮者に任命された折であり、1991年までの5年間、各シーズン30回近いコンサートを振っている。リーパーはロンドンの4つの主要オーケストラをはじめ、モスクワ交響楽団、ウィーン交響楽団、プラハ交響楽団、そしてイギリス、ドイツ、ポーランド、チェコ、アイルランド、ノルウェーといった国々の放送交響楽団、スイス・ロマン管弦楽団、スウェーデンのマルメ交響楽団なども指揮してきた。最近では、ザルツブルグ・モーツァルテウム管弦楽団、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、マレーシア・フィルハーモニー管弦楽団などに客演。それに並行して、スペイン各地でセビリヤ市管弦楽団、マラガ市管弦楽団、ガリシア・レアル・オーケストラなどとの活動を続けるほか、グラン・カナリア・フィルハーモニー管弦楽団とも緊密な関係を保っている。リーパーのレパートリーは時を経て大きく広がり、それは古典の主要作品に止まらず、シベリウス、ヤナーチェク、エルガー、ドヴォルジャーク、マーラーをカバーし、加えてスペインの作曲家による音楽にも深い理解を寄せる。更にはストラヴィンスキーの『春の祭典』、バルトークの『中国の不思議な役人』、マルティヌーの『聖フランチェスカのプレスコ画』、ショスタコーヴィチの『交響曲第1番』、ヤナーチェクの『イエヌーフア』といった作品でも目覚ましい成功を収めている。トップ・アーティストとの共演も多く、ムステスラフ・ロストロポーヴィチ、フェリシティ・ロット、ギャリック・オールソン、ルドルフ・ブッフビンダー、ミツシャ・マイスキー、フランク・ペーター・ツィンマーマン、アリシア・デ・ラローチャ、ピエール・アモイアル、エルンスト・コヴァチッチ、チョーリャン・リン、アンネ=ゾフィー・フォン・オッターといった名があげられる。こういった極めて幅広い活躍は、これまで80枚にも及ぶCD録音にも表われており、そのほとんどがアルテ・ノーヴァ、ASV、ナクソス/マルコ・ポーロ、ラ・モータ・デ・ボルヴォといったレーベルによるもの。取り上げた作品は、マーラー、シベリウス、ニールセン、ドヴォルジャークらの交響曲シリーズを含むクラシックのスタンダード曲を始めとし、ロシアや中欧の主要作品、イギリスの主要コンサート作品や軽音楽にまで及ぶ。ASVからは20世紀のスペイン音楽を出しており、その中にはグラナドス、エルネスト・ハーフター、ロードー、オブラドレス、コンラード・デル・カンボらの作品の初録音も含まれている。



ピアノ 小曾根 真 Piano: Makoto OZONE

父・実の影響でジャズに興味を持ち、12歳の時にオスカー・ピーターソンの演奏を聴き、ジャズ・ピアノを学びはじめる。80年渡米。83年ボストンのパークリー音楽大学、ジャズ作・編曲科を首席で卒業。同年カーネギーホールにてソロリサイタルを開き、米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、アルバム「OZONE」で全世界デビュー。同時にゲイリー・パートンのグループに参加、ワールドツアーを開始。03年パートンとのデュオ作『ヴァーチュオーシ』(Concord)で、第45回グラミー賞に初ノミネートされる。近年はクラシックにも取り組み、国内外の主要オーケストラと、バーンスタイン、モーツァルト、ショスタコーヴィチ、ラフマニノフなどの協奏曲で共演を重ね、「比類のない演奏で、観客は魅了され大絶賛した」(北独ハノーファー新聞)など高い評価を得ている。また、2004年には、ビッグバンド「No Name Horses」を結成し、国内はもとより、アメリカ、フランス、スコットランド、オーストラリア、シンガポールなどから招かれているほか、数々のCDアルバムをリリース。2010年は、ゲイリー・パートンとの全国ツアー、および、ショパンの生誕200年を記念したアルバム『ロード・トゥ・ショパン』を発表し、リサイタルツアーを成功させ、ポーランド政府より「ショパン・パスポート」を授与された。録音活動も活発で、多数リリースしており、最近では2011年夏に東日本の復興を支援する『Live & Let Live - Love for Japan』および「No Name Horses」のライブ盤『Back at the Club "in Trubute"』を発表。2012年には、クリスチャン・マクブライド(b)、ジェフ・ティン"ワッツと久々のトリオを組み、国内ツアー及び、アルバム『My Witch's Blue』をリリース。またエリス・マルサリス(Pf)とのデュオアルバム『Pure Pleasure for The Piano』も、チャリティアルバム第2弾として同時リリース。FM番組のパーソナリティーを務めるほか、TV番組のサウンドトラックや舞台音楽を手がけるなど幅広く活躍。読売演劇賞最優秀スタッフ賞ほか受賞多数。2011年4月より、国立音楽大学(演奏学科ジャズ専修)教授を務める。公式ホームページ: <http://makotoozone.com/>



©篠山紀信

京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

京都市交響楽団(京響)は、日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年に創立。最近では、楽器講習会や音楽鑑賞教室、福祉施設への訪問演奏などにも積極的に取り組み、07年「第25回京都府文化賞特別功労賞」、「京都創造者大賞2007」受賞。08年4月からは、第12代常任指揮者に広上淳一、桂冠指揮者に大友直人が就任し、09年は「スプリング・コンサート」や「オーケストラ・ディスカバリー」など新企画で注目を集めた。10年11月広上淳一指揮による定期演奏会のライブ録音CD第1弾を発売し、12年2月にはライブ録音CD第2弾を発売。半世紀という節目を経て、「京響」は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」を目指して更なる前進をはかっている。



次回予告

2012年 12/27(木)から発売!

第566回 定期演奏会

広上淳一で聴くプロコフィエフ最晩年の叙情 ~大陸的なスケール感溢れるクララ=ジュミ・カンのコルンゴルト~

日時: 2013年3月24日(日) 午後2時30分開演

曲目: ハチャトゥリアン: 組曲「仮面舞踏会」

会場: 京都コンサートホール

コルンゴルト: ヴァイオリン協奏曲ニ長調Op.35

指揮: 広上 淳一(常任指揮者)

プロコフィエフ: 交響曲第7番嬰ハ短調Op.131

独奏: クララ=ジュミ・カン(ヴァイオリン)

入 場 料 ③¥4,500 ②¥4,000 ①¥3,500 ④¥2,000 (舞台後方席)



©K.Miura

